JAPAN HERITAGE
日本遺産

有松

NO.87 有松まちづくりの会

◇手廻し蜘蛛絞り

手廻し蜘蛛絞りは特別な道具が必要になります。蜘蛛と蜘蛛の間が少しあいていないと、１つ目の絞りが邪魔をして２つ目の絞りが巻きにくくなるため、手蜘蛛絞りと違い絞る箇所に下絵をつけます。道具の鈎針に下絵の中心を引っ掛けハンドルを回転させことにより糸が巻き付き絞り上がります。手蜘蛛絞りよりも小さい絞りが出来、作業時間も早く出来ます。

解説：竹 田　昌 弘

「有松」これから進む道

有松まちづくりの会会長　竹田嘉兵衛

本年新潟で開催された全国町並みゼミ新潟大会で、来年の開催地小樽の町づくりの会会員が小樽の町のプレゼンをされました。

今、全国町並み保存連盟でその年のＶＩＰに与えられる賞は峯山冨美賞です。峯山さんは小樽運河の保存に大きな功績を残された女性です。プレゼンの中に登場した峯山さんの写真を見た時、私は思わず「あっ」と声を出してしまいました。昭和48年頃、私の家に有松まちづくりの会の方々を尋ねて来た人だと気付いたからです。

その時その方に私が御用件はと尋ねたところ、小樽の運河を保存したいのでそれについて参考となる御意見を町並み保存の先進地有松で聞きたいとの事で、まちづくりの会にも入っていなかった私はいささかびっくりしました。勿論私に意見など有るわけは無く、当時「訴えます」というビラを配り「有松まちづくりの会」の設立をしていた父をはじめとする有松の諸先輩を呼びに走りバトンタッチをした事を思い出しました。

今では町並み保存の女神様扱いをされている峯山冨美さんも、困難だった小樽運河の保存に、思いあまって助けをもとめて遠路はるばる町並み保存の先進地と考えられていた有松に参考意見を聞きに来られた時のことでした。

有松ではその後、昭和49年に有松、妻籠、今井町の三団体で「町並み保存連盟」を発足、昭和50年には「全国町並み保存連盟」と改称して全国組織となり、平成25年に電柱の地中化、平成28年には重要伝統的建造物群保存地区に選定され、令和元年に日本遺産に認定されました。

令和４年の３月にはこれから先30年を見通すグランドプランの策定を目標としてシンポジウムが開催されました。その結論として有松サローネ（客間）構想が提案されています。これは有松を人の集いやすい地域にすることで、人の交流や情報の収集ひいては産業や経済の振興に結びつけようとの構想です。

江戸時代、江戸と京都を結ぶ東海道の真ん中に位置した尾張には、経済・文化・産業が混じり合う独特の文化が形成されました。その中枢名古屋に位置する有松では絞り染めを通し、その生んだ経済力もあって、デザイン、アート、クラフトが行き交い常に革新的な製品が開発されてきました。絞り染めの産地として貴重な文化遺産をもち現代も伝統産業として多くの人々が従事している町を「有松サローネ」として国際的に開かれた「サローネ（客間）」とし、世界との知恵や情報の交流によりかつてヨーロッパ文化に大きな衝撃を与えたジャポニズムを越えるネオジャポニズムを生み出して、有松や名古屋ひいては日本の文化経済の再興を促進したいと考えています。

STILL ALIVE

名古屋市緑区長　長嶋　利久

すごい人出！

六月四日。私は、久しぶりに赴いた有松絞りまつりに感心していました。

私が区長を拝命した令和四年四月は、コロナ禍で中止が続いていたイベントがようやく復活しつつある時期でした。そんな中で、有松絞りまつりは三年ぶりの開催。盛りあがるのか心配していましたが、まったくの杞憂。結果は、コロナ前を超える八万五千人もの人出があったと知り、有松の地域の人々とともに有松絞りまつりは盛大に生き続けていると感じました。

有松を散策

有松と言えば、重要伝統的建造物群保存地区に選定された町並みの素晴らしさとともに、そのストーリーが日本遺産に認定されています。そこの中には「東海道中膝栗毛」のこんなエピソードがあります。

「欲しいもの　有松染めよ　人の身の
あぶら絞りし　金にかえても」

この歌を詠んだ主人公「弥次さん」は、お伊勢参りの徒歩旅行の途中に東海道の東から有松の町に入り絞りの素晴らしさに魅せられて手拭いを買いました。

二百年後の今、絞りは和の物だけでなく、ワイシャツやネクタイといった洋の物もたくさんあり、身に付けるものからインテリアまで幅も大いに広がっています。革などの新しい素材の製品も生まれています。

私は二十年前に、とある方から藍の絞りネクタイを頂きました。なかなか使う機会もなかったのですが、緑区長となって、ここぞという時の必須のアイテムになりました。

そして今、やっぱり緑のネクタイも欲しくなり、お気に入りとの出会いを求めて少しドキドキしながらお店をのぞいています。

私は、四百年の歴史を持つ有松の全てが、実直に、そして時に革新的に生き続けている様に凄さを感じます。大事なものを守りつつ、時代に合う新しさをとり入れていく、これが伝統なのだと思います。

弥次さんを魅了した有松。今も新鮮な魅力を備えつつ、海外も含め多くの人を惹きつけ続けています。

本寄稿を執筆している今、「ＳＴＩＬＬ ＡＬＩＶＥ 国際芸術祭 あいち２０２２」が開催されています。芸術も現代になって新しい形のものが生まれています。

国際芸術祭をきっかけに多くの方に有松を訪れてもらい、その魅力にふれて欲しい。そうして、有松ファンが世界中に広がってほしいと思っております。

私の「国際芸術祭あいち2022」

ご縁があって、大好きなこの有松に住むことが出来4年が経ちました。この間国内外で経験の無い不安な出来事が多い中、有松の活力は衰えず、常に新たな活動に取組む姿に元気をもらっています。

そして今年は、「国際芸術祭あいち2022」への展示会場提供で、町並みの賑わいにも更なる弾みを付けているようです。

有松の屋内外での展示は、いわゆる美術館展示室のように作品が際立つ白壁とは異なり、歴史ある建物環境が背景となっていて、現代アートの展示作品さえも包み込む特別な味付けを加えているようで、来場者にも記憶に余韻が残る面白さが楽しめたのではないかと思います。

これに触発され、我が「有嵓庵」でも「絵画・木工作品展」をこの会期中に時々催し、東町の賑わいに役立てばと30年程前から趣味で作りだめしていた、欧米の旧市街町並み模型や絵画などを入場無料で展示しました。

来場者からの暖かいお言葉も頂け、これからの励みにもなってます。

さて、まだ「国際芸術祭」もうひとまわり楽しんでみましょう。

川口　廣次

国際芸術祭あいち2022 会場ボランティアとして

STILL ALIVE〝今、を生き抜くアートのちから〟国際芸術祭は有松会場でも開催され、会場ボランティアをすることになりました。

一日目は県美術館担当だったので、現代芸術に触れる機会を楽しみにして行きました。〝今を生き抜く〟がテーマということで、今の世界、コロナやウクライナ・ロシア戦争、アフガニスタンやミャンマーの内戦、LGBTQなど多義に渡り国内外の芸術家が作品で表現されていました。世界各地から月だけを写した数百枚の写真、どんな時、どんな場所からでも月は同じ様に見えて美しく輝いていること。あたりまえのことですが、いつまでもその写真を観ていられる。他にも工芸的な作品もあり、アボリジニの編み物、パッチワークの様なテキスタイル、〝バクダン〟と名前が付いている陶器の作品、これらは何を表しているのだろう？と問いかける。それぞれ興味を持って鑑賞しました。ボランティアとしてではなく、一鑑賞者としてゆっくり観て回りたいと感じた活動日でした。

そして、愛知県開催ということで、愛知県ゆかりの作品もありました。その中に〝猩々〟が何体？何人も整然と並んでいてとても可愛らしい作品もありました。〝猩々〟は芸術祭の盛り上げ役、有松のお祭りと一緒なんだと思いました。猩々の役割は大きいですね。有松会場も作品が12か所あり10月10日までの期間楽しんで活動したいです。

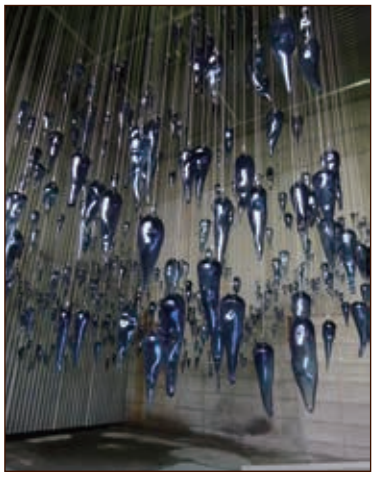
伊藤　香

国際芸術祭・有松会場を見て

待ちわびていた国際芸術祭あいち２０２２が始まり、早速、有松の古い町屋などに設けられた各会場へ見に行ってきました。

国際的な現代アートと、古い木造の建物や町並みといった二つの違った世界。しかし、一歩会場に踏み入れると、この二つが見事に融合し、一体となった空間がありました。

水平と垂直、茶色と白の和の世界に、色鮮やかで自在な形をした作品群。太い丸太の梁の迫力と、ミノムシが絞りをまとった映像、重厚な低い天井と、サモアの風景が描かれたカラフルな着物、欄間や壁には表情豊かで語りかけて来るような仮面の数々、波形スレートの壁を背景に、吊られて揺れる千個の青い小さなガラス体（モチーフは、ヤムイモ）。スタッフに「何がテーマですか」と聞いたところ「ありません、それぞれで感じてみてください」と言われ、じっくり見ていると、緩やかに揺れるガラスに爽やかなそよ風を見ることが出来ました。外では、あちらこちらでキャンパス地に淡い色彩を施した数多くのリボン。風にたなびき、古い町並みに一層の風情を醸し出していました。



歴史のある建物の持つ特性を、作品たちは見事に消化し、繊細な色や形によって巧みに表現していて、アーティストのパワーを見せつけられた思いです。そして、あらためて有松の多様性を感じ、また、このような催しが身近で見られたことを感謝しています。

武田　憲三

会場運営のボランティア、体験しました！

会場担当のボランティアに応募して、私は結局、この一日だけになってしまいました。旧山田薬局でカウントをとり、岡家住宅では作業場の片隅に座っていました。鑑賞の邪魔にならないよう、おとなしくしているのです。声かけや介助が必要なケースはありませんでした。尋ねられたときに「蓑虫に絞りの布きれを渡したら」ということかなと私は思いました、とか、余計な事を言わないようにしていました。

普段、岡家住宅の公開時には「作業と言っても括りや染色の作業ではありません」などと説明したり、梁の上の焙炉のご説明ぐらいですが、その場所が、こうして大小7台の液晶ディスプレイが設置され、それぞれ、「彼女に布をわたしてみる」というテーマの映像が繰り返し再生されているのです。ＡＫＩＩＮＯＭＡＴＡさんはじめ久野染工場さんなどなど、大勢の方が協力して作品を作り上げ、展示に至っているのです。そこに一日だけ、関わったことになります。

一宮会場、常滑会場を回っても、期間中、様々な方が訪れていることが分かります。新型コロナウイルスの感染拡大により、令和二年二月以来、旅行がままならなかった私たちですが、国際芸術祭は、日展、院展などといった美術展とは異なり、様々な刺激を受け、見慣れた景色を一変させ、異空間に迷い込ませるものです。私たちは非日常、異次元を旅する事になりました。

山本　文雄

令和4年度 有松まちづくりの会 総会報告

5月19日（木）、絞会館大会議室にて開催されました。本年度も新型コロナウイルス感染予防のため、来賓はお招きせず、講演会も中止で実施されました。

竹田嘉兵衛会長の挨拶後、以下の議案が審議され、拍手によって承認されました。

議案は次の通り。

第1号議案　令和3年度　事業報告並びに収支決算書報告の承認

第2号機案　令和4年度　事業計画並びに収支予算案の承認

（写真・福岡友一）

有松ゆかたまつり 今年も開催（7月30・31日）

～有松まちあるきスタンプラリーが大賑わい～

昨年に続き「有松を元気に」との思いを込め行われ、有松の夏の風物詩になりつつあるようです。近隣の方や親子連れなど浴衣を着ての来場者がたくさん見られました。地元の絞り屋さんや飲食店の工夫ばかりでなく、キッチンカーやクラフトの店が東海道筋を中心にたくさん出されていたこともまち歩きを楽しくしているようでした。両日とも、朝から強烈な日差し。暑さを和らげようと、有松小学校トワイライトルームのみなさんや東陵中学校の藝術文化探求部の皆さんのご協力を得て、打ち水がされていました。効果のほどは・・

30日から国際芸術祭も始まったこともあり、二日間で2万人ほどの方にご来場いただいたようです。今年は「有松まちあるきスタンプラリー」が大人気。浮世絵制作の手順のように、色違いのスタンプを6か所で押すと広重浮世絵ができあがり。しかも、完成品を絞会館に持っていくと絞りタオルがもらえます。会館の方に様子を聞くと、「両日で400枚ほどがなくなりました。9月からまた同量用意してありますのでスタンプラリーにご参加ください」とのことでした。

有松あないびとの会による無料の「町並みツアー」も行われており、ガイドさんの中にはスタンプ置き場を教えながら町並み案内をされている方も見えました。スタンプ設置をしている芸術祭会場のいくつかでは無料で作品鑑賞ができるところもあり、国際芸術祭盛り上げに一役買うことができたようです。他に山車会館では、故竹田耕三氏と故山本寛斎氏がコラボして制作した舞台衣装が所狭しと展示されていました。中町年行司では文嶺講の授与品頒布が、祇園寺境内では、絞り体験会が行われていました。訪れた時、小学3年生の女の子が雪花絞りに挑戦中。縦に細長く折った生地を三角形に蛇腹折りしていました。その後、両端を板で挟み染め液に浸し、水洗い。「（生地の）色が変わっていく」と驚いていました。屋外展示も行われ、〝足助たんころりん〟〝「絞」「瓦」灯りストリートのオブジェ〟が設置され、夕方には点灯されて夜も楽しめました。

（伊藤総俊）

町並みの新しい仲間

◆ありまつ舎　通（つな）ぐ

はじめまして。2022年1月からDIYで約4か月の改修期間をかけ、2022年4月30日（喫茶は5月28日）にオープンしましたギャラリーと喫茶です。地元出身の有松のまちが大好きな女性2人がやっています。

ギャラリーでは各地で活動する作家さんを有松へお招きし、まちや絞り、歴史にインスパイアされた作品を展示します。地元の方はもちろん、より多くの方に有松をもっと「面白いまち」と思って頂けるよう活動しています。地元の作家さんの展覧会や個展も実施します。

喫茶はハンドドリップコーヒー、こだわりの紅茶、ハーブソーダ、ソフトドリンク。食事はホットサンドやあんバタートーストなどの軽食をご用意しております。

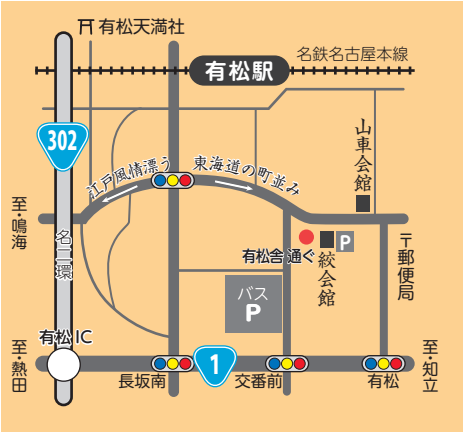
今後は有松東海道沿いのお店限定でのデリバリー（ポットコーヒー）、チラシのデータ作成、夜間の打合せスペース利用も計画しております。

5年間という期限付きのお店ではありますがたくさんのまちの皆さまと顔見知りになり、お話しをし、つながっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

住　所　緑区有松3003-1

営業時間　平日　11時～18時
土・日11時～17時
火曜日11時～15時
ランチタイム11時～14時

定休日　水曜日（※芸術祭終了後は不定休。お店やSNSで掲示。）



Mail: tsunagu.arimatsu@gmail.com

街角ウォッチング㉒
やっぱりいいね!! 3年ぶりの絞りまつり

コロナもお天気もクリアして3年ぶりの絞りまつりが開催されました。

例年よりはやや控えめな出足でしたが、終わってみれば9万人近い人出の大賑わいでした。観光客の中には「こんなにたくさんの絞りの浴衣姿を見るのは初めてだわ」と感激した様子の人もおられました。

中でも印象的だったのは中町年行司での猩々と天狗です。最近新調された緋の衣装が鮮やかで大勢の人波が東へ西へと動く中にいて、終日子供たちやパパママの頭を団扇で撫でておおいに活躍していました。「団扇で頭を撫でて貰うと元気に育つ」。子供も大人もアタマを撫でて貰うときは一瞬真顔になります。

子供にとっては怖い顔の猩々と天狗です。時には泣き出す幼子もいたりして、家族連れの微笑ましい姿もありました。

マーチングバンド、交通整理、救護、学生さん達、大勢の方々のご協力により楽しい絞りまつりを終えることができました。

（浅野康子）

全国町並み保存連盟
第3回東海ブロックゼミ有松大会

日時　11月26日(土)
9時30分～11時45分　受付・町並み案内
13時00分～16時45分　講演
各地からの報告等

場所　絞会館2階大会議室

『晩秋の有松を楽しむ会2022』

11月5日(土)・6日(日)

「伝統・文化・SDGs」をテーマとした
展示や体験などのイベントを開催します

時　間　10時～16時
場　所　有松東海道一帯

◆有松ミチアカリ

時　間　17時30分～20時
場　所　有松西町界隈

俳句

「秋」

鈴虫も水琴の音も茶室かな
秋めきて仏足石に手を合せ
静寂な社に一人秋の朝

鈴木 義光

◆主な来訪者◆

（有松あないびとの会ご案内分）

・広報なごや緑区版「ぶらっとみどさんぽ」長嶋緑区長さん
・桜花学園大学、椙山女学園大学の皆さんの地域学習
・名古屋大学留学生の皆さんへのオンライン町並み案内
・国際芸術祭あいち2022開催中の土日祝日は、無料の町並み案内も実施。

◆交差点の名称変更◆

呼称実態に合わせるため、地域からの要望で交差点の地点名標識が変更されました。（2022．8．1変更）

国道1号「桶狭間」

桶狭間 Okehazama → 有松 Arimatsu

国道23号「有松インター」

有松インター Arimatsu I.C. → 桶狭間（有松インター） Okehazama (Arimatsu I.C.)

◆編集後記◆

コロナ禍で中止されていた絞りまつりが3年ぶりに開催され、様々な心配を吹き飛ばす8万5千人ものお客様。しかも、かつて見たことのないほど大勢の絞り浴衣姿が溢れた有松東海道でした。この変わらぬ有松の魅力をもっと多方面に発信できる機会となっているのが国際芸術祭あいち2022です。現代アートの表現の場としての有松は「落ち着いた佇まいの町並み」といった見た目を超えて、繋いできた時の奥行きを感じてもらえる空間になっているように思われます。〝初めてさん〟が有松応援団になってくださるよう願っています。

（加藤明美）

企画編集（加藤一成・長塚　啓）

〈有松まちづくり憲章〉

私達は、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次世代に届けるために、この憲章を定めます。

一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。
一、人と人とがつながり、ぬくもりのある有松を創ります。
一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。

有松まちづくりの会
二〇二二年九月三十日発行
（年二回発行）
〒458-0924
名古屋市緑区有松三〇一二（有松商工会内）
TEL（052）621-0178
FAX（052）622-7401